@NFU_TAKE

2023 年度 竹のようちえん

「バンブープロジェクト」実践報告

実施場所：日本福祉大学とふくしの森

1. バンブープロジェクトとは

竹のようちえんは、日本福祉大学の学生や地域の方々が協力して、美浜町の竹害の課題解決に向けて、親子が楽しみながら取り組める環境を構築することを目指して設立された任意団体である。2023 年度は、美浜町エンジョイプランの補助金をいただくことができ、ＳＤＧｓの教育も含めた次世代育成の場としての、美浜町の自然環境の魅力を町内外に発信していく「バンブープロジェクト」を実施した。

放置竹林対策は「美浜町竹林整備事業化協議会」（モリビトの会）が、先進的に行っているが、放置竹林の拡大スピードはとても速く、多様な人々が放置竹林に目を向け、楽しみながら継続的に放置竹林対策の活動を取り組めるようにしていきたいと考えた。

本プロジェクトは、美浜町の課題である竹害の課題解決を、「課題」という否定的な見方ではなく、親子が「竹を使って楽しい活動」ができるという生活文化づくりの視点（学び）を提供する。これは、子どもたちに環境破壊という負の遺産を負わせるのではなく、日常生活自体が、自然と、ネイチャーポジティブに向けた生活に転換していく次世代育成の教育そのものであると考える。

2023 年度は、日本福祉大学および学内の「ふくしの森」を舞台に、活動を行ってきた。本パネルは、その概要を簡単にまとめたものである。詳細については、「幼児期から親子でできる竹の活用法」の冊子にまとめている。

2. 幼児期から親子でできる竹の活用法一覧

実践時期	内　　容	実践時期	内　　容
春・夏	たけのこ堀り／竹の水鉄砲 メンマづくり／竹ぽっくり 忍者修行／流しそうめん 竹寒天づくり／竹の鍋敷きづくり	秋・冬	竹ドームづくり／鬼のてこぼし ほうきづくり／竹ご飯づくり 門松づくり

上記表の実践時期については、2023 年バンブープロジェクトが実践を行った時期である。実際は、竹ぽっくり、忍者修行、竹寒天づくり、竹ドームづくり、ほうきづくり、竹ご飯づくりは、通年で行うことができる。

3. 具体的な竹の活用法の一例紹介

忍者修行

まきものづくりの術／竹のボーリングの術／バンブーダンスの術／竹のリンボーの術／器づくりの術／箸づくりの術／竹のシャボン玉の術／笹の葉水流しの術など

✧　竹のボウリングの術（ピンもボールも竹）

【準備するもの】竹、ビニールテープ

■手順■

1、竹を適度な長さに切ったものを 11 本用意する。

2、年齢に応じて竹を転がし始める位置を決めるとおもしろい。（目印としてビニールテープを貼っておく。）

✧　バンブーダンスの術

【準備するもの】約 1.7m の長さに切った竹を 2 本

■手順■好きなリズムで跳びながら踊る。

✧　竹の巻物の術

【準備するもの】縦 15 センチ、横 45 センチの白い方眼紙、縦 15 センチ、横 20 センチの和柄のついた紙、縦 15 センチの竹の棒、紐、油性ペン、色鉛筆など

■手順■

1、白い方眼紙と柄のついた紙を用意して、端 5 センチを 2 枚重ねて糊付けする。

2、柄の紙の端には巻物を縛るための紐をつける。白い紙の端に棒をつける。

3、白い紙に油性ペンや色鉛筆を使って、子ども達に自由に絵を描いてもらう。

4、棒を付けた方から巻き、最後に紐で結ぶ。

✧　竹のリンボーの術

【準備するもの】長細い竹 1 本

■手順■

1、細い竹をテーブルや椅子を使い、固定する。

2、子ども達が竹の下を通り抜けることができたら、どんどん高さを低くし、どのくらい低い竹をくぐれるか、挑戦する。

✧　箸作りの術

【準備するもの】竹、鉈、小刀、ヤスリ、カッターマット

■手順■

1、竹を約 15 センチ幅に輪切りにする。

2、15 センチ幅に切った竹を縦に立てて、鉈で約 1 センチ幅に割っていく。

3，1 センチ幅に割った竹の側面をカッターマットの上で小刀やヤスリを使い，滑らかに削る。

✧　竹の器づくりの術

【準備するもの】のこぎり、やすり

■手順■

1，節の下ごとにノコギリで切る。

2，ちょうどいい長さになるよう飲み口の高さを整える。

3，飲み口にヤスリがけをかけ綺麗に整える。

✧　竹のしゃぼんだまの術

【準備するもの】ストロー程度の細い竹、シャボン玉液

■手順■

ストロー程度の細い竹を、ストローとして使用し、シャボン玉をつくる。

（以下、省略）

4. 本プロジェクトの成果

・親子が、自然素材から、遊びや生活文化に関わる小道具を作る知識や経験を得られた。

・親子が、日常生活で経験できないことを、本プロジェクトで経験してもらうことができた。

・親が、家では見ることのできない子どもの顔が発見できるような環境を作ることができた。

・子どもたちが、自然と触れ合うことの大切さや意味を理解することができた。

・子どもたちが、自然と触れ合うことで身体的発達を促すことにつながった。

・異年齢の子どもたちの関わりを作ることができた。

・保護者間のコミュニティーを築くことができた。

5. 次年度への課題

・地域の方々の指導や協力も得られたが、日本福祉大学の学内で開催したため、学内に閉じられた活動になってしまったとも考える。今後は、地域に活動の場を広げていきたい。